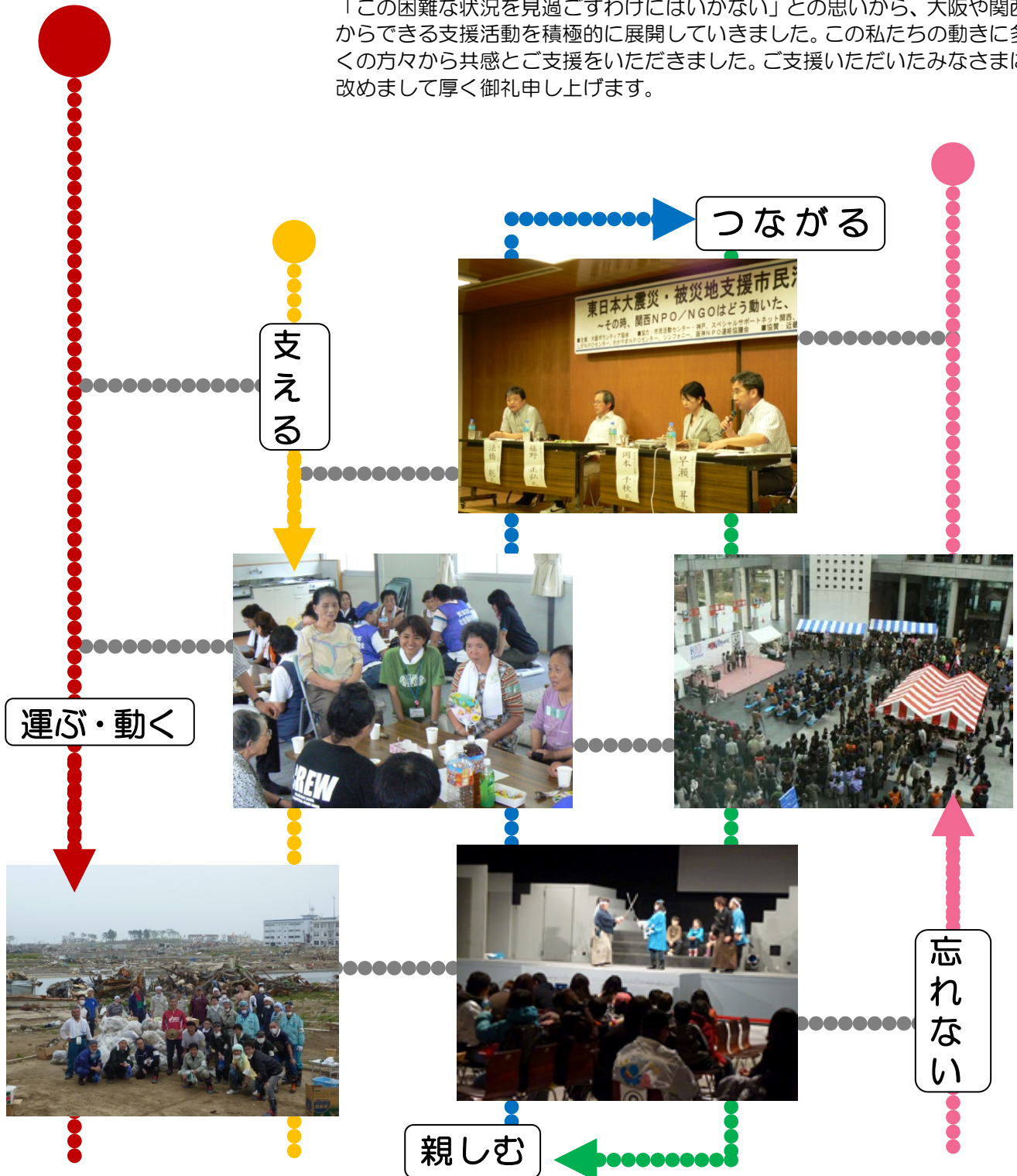


東日本大震災・ 紀伊半島台風被害に対する支援活動 大阪ボランティア協会の取り組み

3月11日に発生した東日本大震災は、阪神・淡路大震災の被害規模を大きく上回る大災害になりました。

大阪ボランティア協会では、被災して深い痛みを負った人々を支えるため、「この困難な状況を見過ごすわけにはいかない」との思いから、大阪や関西からできる支援活動を積極的に展開していきました。この私たちの動きに多くの方々から共感とご支援をいただきました。ご支援いただいたみなさまに、改めまして厚く御礼申し上げます。



運ぶ・動く

□緊急時の物資支援：相乗りプロジェクト「トラック編」

今回の大災害では、場所や施設によってまだまだ物資は届いていない状況が長く続き、特に高齢者、障害者、乳幼児、妊婦さんなど社会的弱者へのニーズが各所で発生。大阪の企業、大阪市、NPOの相乗りコラボが実現し、様々な救援物資を全9便、運ぶことができました。

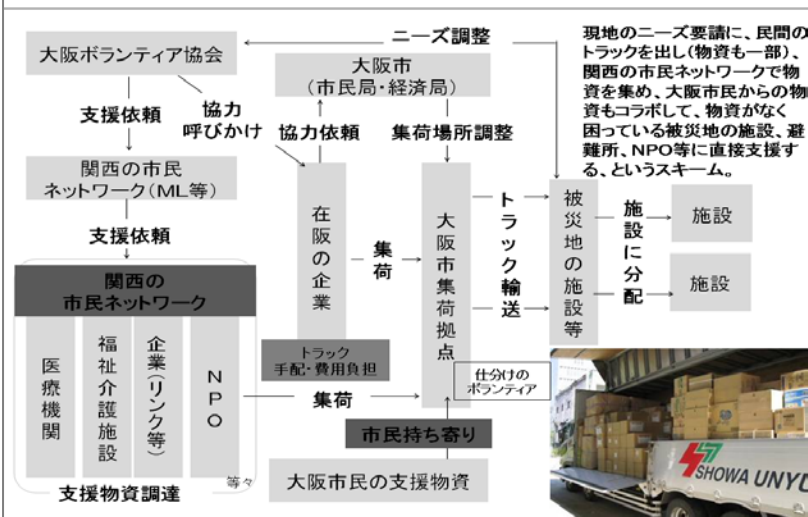


□緊急時のボランティア支援：相乗りプロジェクト「ボラバス編」

企業のCSR担当者やNPOで活動を推進するメンバーを対象に、現地の状況を知り現地でのボランティア活動を通して、今後自社や企業連携での被災地支援のあり方を考え、具体的な復興支援を進めていくための「あいのりボランティアバスを全7便出して、計 163 人のボランティアが現地のガレキ撤去や清掃、仮設住宅でのコミュニティ支援などをお手伝いをしました。



■ 市民・企業・行政のコラボで、支援物資をお届け〜『相乗り』プロジェクト



◀この相関図は何度か物資を輸送した後に見えてきた「仕組み図」です。震災発生の初期段階では、物資ニーズの聞き取りから輸送まで、手探りの状況が続きました。

タイムリーなニーズマッチングが災害支援のポイントであることを痛感

(積水ハウス(株)コーポレート・コミュニケーション部 CSR室長 広瀬雄樹)

震災の発災当初、大量の支援物資は集まったがなかなかスムーズに運送できない、物資を受け入れても被災された方の手になかなか渡らないという自治体に関する報道をしばしば目にしました。弊社では中間支援組織やネット掲載情報を手掛かりに現地と直接連絡を取り合い、「欲しいものを・欲しい方に・欲しい時に」お届けするよう注力しました。物資についても日頃からのネットワークを活用し、多セクター・多団体の方々から提供いただき、相乗りの形で現地に運送することができました。被災地は物的支援、義援金などの緊急支援から生活支援、経済支援へとフェーズが移行しましたが、関西企業として何ができるかを常に考え、協会とも協働しながら息の長い支援活動を継続していきたいと考えております。



ふだんの“協働”の関係が、災害時に活かせるような街に…

(大阪市人権啓発・相談センター担当係長 岡田 寛)

当時、市民活動担当に所属し、これからの公共の担い手としての市民活動に大きな期待を寄せていました。阪神淡路を契機に大きく育った市民活動が、今回も迅速に動き出すことは容易に想像できるけれど、行政としても進んで関わるからこそ市民協働との思いで、その責任を果たしたい気持ちでした。あの時スキルが高ければ役所内での動きを加速し、パートナーとしての役割をもっと果たせたのでは…と反省します。その反省を、今の業務に繋げたいと思います。平時に出来ないことは災害時には出来ない…を肝に銘じ、大阪の“絆”をもっと強いものに！



床下にもぐっての作業も



床をはがしての泥出し作業には大工経験などがあるとよい



作業後は泥だらけに

◀最初のボラバスは5月5～8日まで東松島市で。2便以降のボラバスにつなげるために発行した「ボラバスかわら版」より抜粋。甚大な被害に言葉を失い、黙々と泥だしを行いました。



あいのりボラバスに参加して

河野和美、小林明子
西本悦子(大阪ガスグループ社員)

■まず思ったのは「自分に何が出来るだろう」。ガレキ撤去に体を動かし、仮設住宅では住人達と心を通わせ。何が出来るではなく、行って体験して考え、何かを貰って帰ってくる。復興はまだまだという思いを持ち続けます。(河野)



■他企業様との連帯、自社の社会貢献姿勢、また現地の人の前向きな姿勢に励まされ、自分に出来る事、何か役に立つならこれからも参加していきます。(小林)



■ボランティアは善意の形を押しつけず、希望の言葉で、温かい支えになると思いました。重油まみれのカゴの洗浄、たこ焼きボランティアは現地の方の支えになったと思います。きっかけを作って下さった、大阪ボラ協さんに感謝！(西本)

支える

〇災害ボランティアセンターに、運営支援者およびコーディネーターを派遣

発災から8日目の2011年3月19日に第1陣として、宮城の災害ボランティアセンターに派遣。「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」の運営支援者として、事務局の8人のスタッフが数珠つなぎでのべ246日間、ボランティアセンター自体が被災している現地を支え続けました。



▲ボランティアは多い日で、600人を超えた
(2011年4月20日撮影)

▲復活祭を住民と盛り上げる
関西からのボランティア(2011年8月13日撮影)



▼ボランティア活動希望者でごったがえすセンター(2011年5月11日撮影)

〇気仙沼の復興支援：連携を支えるためのコーディネーター派遣

夏以降は、宮城県気仙沼に専門のコーディネーターを派遣。異なる背景や痛みを抱える人々に寄り添いながら、住民が主体的に地域活動できるようなファシリテーションや、地域団体やNPO・NGOなど支援者の地域別やテーマ別の連絡会議の運営支援を行いました。また、大阪からは「たこ焼きボラバス」を企画。住民主催のイベントのお手伝いやボランティアとの交流に取り組みました。



▲「男の昼メシ企画」：交流の機会が少なくなりがちな男性を対象に、気仙沼の皆さんは郷土料理を、関西のボランティアはたこ焼きを披露。
(2011年12月4日撮影)



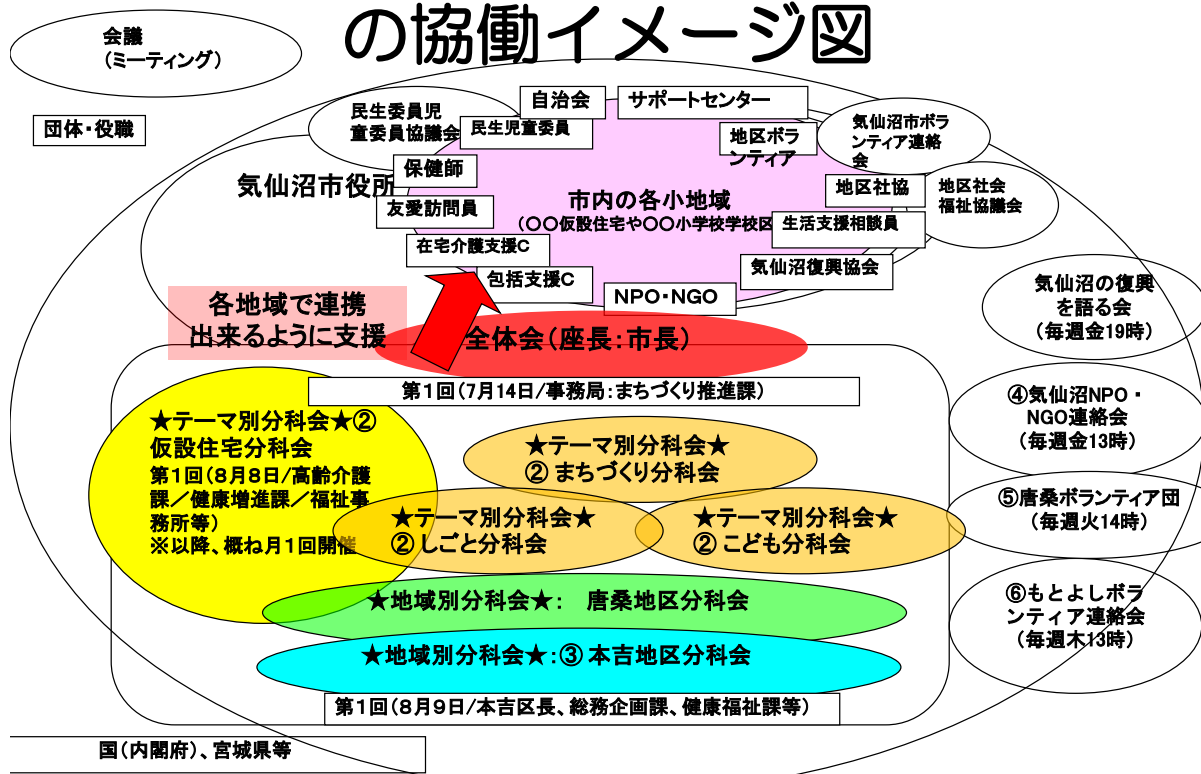
▲こどもたちに安心して遊ぶ機会を(2011年8月21日撮影)



▲NGO、社協、行政との協働懇談会(2011年7月14日撮影)

「被災者主体・被災地中心」の支援原則を大事に伴走し続けました。

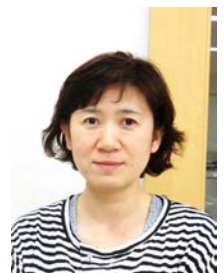
気仙沼市とNPO・NGO・社協 の協働イメージ図



▲6月ごろからNPO・NGOのネットワークづくり、NPO、社協、行政が協働できる気運と機会づくりに取り組んだ。9月からは小地域での支援者ミーティングを実験的に開催。ファシリテーションを通じて、サポートセンターが本格稼働するまでの、個別支援や地域支援の連携を図った。〔「東日本大震災 気仙沼市での復興活動における NPO・NGO、社会福祉協議会、行政の連携の動き」(『ウォロ(Volo)』2011年12月号より)〕

ここは共に (気仙沼市社会福祉協議会 鈴木美紀)

大阪ボランティア協会さんには、災害支援プロジェクト会議(支援P)として、支援に入っていました。同じ団体さんからの継続支援は、当市の被災状況や現状、災害ボラセンの方針などがスムーズに引き継がれ、こちらで伝える時間がとれないような緊迫した状況のなか非常に助かりました。また、経験を生かした冷静で的確なアドバイス、そして職員への精神的なフォローや、NPO・NGOはじめ関係機関との連携調整など、全体を支えていただきました。現在は名称を「気仙沼市社協ボランティアセンター(復興支援センター)」に改称し、被災された方々の生活支援を中心に活動を行っております。支援P派遣終了後も大阪ボラ協さん独自で当方の歩みに合わせた支援を継続くださり、心強く頼れる存在です。関西と東北は、距離は遠いですが、心は近く感じています。「気仙沼を応援してくださるたくさんの皆さんに心から感謝しています」



ふくしまの応援をありがとう!! (福島県社会福祉協議会 人材研修課 斉藤知道)

東日本大震災では全国から多くの皆様に多大なご支援をいただいたこと、また貴会の皆様には震災当初より長期間にわたりスタッフを派遣いただきましたこと、深く感謝申し上げます。

貴会の皆様には、福島県VCの震災当初からの忙しさと滞っていた本部業務の煩雑さを整理していただき、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議を通じ派遣された方々とのスケジュール調整や、土日休日に運航したボランティアバスの添乗や現地受入れなど、運営から現場まで幅広くご支援いただいたこと深く感謝しております。福島はまだ復興途中で、大阪にも多くの福島県民が避難をしている状況ですが、これからもご支援ご指導のほどよろしくお願いいたします。



つながる

□現状を伝える、学び合う～ネットワーキング、情報発信、学習会などを展開。

発災の翌日には、災害ボランティアサイトを立ち上げ、情報交換会やコーディネーションを考えるつどいなど、現地の被害状況と支援のあり方を考える機会づくりを積極的に展開。そういった中、関西の多くの人からの支援したい思いが寄せられ、災害ボランティア説明会を実施したり、被災地支援を考える学習会などを行いました。



□大阪からできるチャリティ活動！大阪で伝えるチャリティ活動！

大阪から被災地に、復興への祈りと元気を届ける取り組みとして、「9・23 大阪から元気を届けようチャリティバザール」や「東北⇄関西ポジティブ生活文化交流祭」などチャリティ活動へ参加。ボランティアバス参加者とともに、東北の物産販売や被災障害者支援など、ずっと続けていく被災地復興応援に取り組みました。



□紀伊半島の台風被害にも、市民の想いが集結。

9月初旬、台風12号による紀伊半島南部の水害被災。東日本大震災の支援活動の経験とネットワークを生かし、被害の大きかった新宮市熊野川地区の災害ボラセンに職員を派遣。団体ボランティア受付の仕組みづくりや外部への情報発信マスコミ対応の補助などに取り組みました。また、大阪からもあいのりボランティアバスや小回りのきくボランティアカーも走らせ、86人のボランティアが活躍しました。



大阪からできること。大阪だからこそできること。いろいろありました。



情報収集

先遣隊



ボランティアバス

つながる 支援を



コーディネーター派遣



情報発信

「新宮・熊野川に1万人のチカラを！」報告④ [2011年10月29日]

「新宮・熊野川に1万人のチカラを！」報

9,428人/10,000人 【9月~10月29日(土)】

10月も終わりに近づき、熊野川サテライトも朝晩の冷え込みが強くなってきました。

今日は北山村社会福祉協議会の皆さんによる、どん汁の炊き出しがありました🍲

活動後のボランティアの皆さんの身も心もホット温まる一日でした🍷

北山村社会福祉協議会の皆さん、ありがとうございました🍀

活動後、ホットー息



私たちは元気です！（新宮市社会福祉協議会 奥田 修子）

被災後間もなく現地調査ということで大阪ボランティア協会の皆さんがお見えになり、とにかく「思い」をしっかりと受け止めてくれたというのが第1印象です。その後あまりの被害の甚大さに、スタッフとして一緒に活動していただき、ご指導いただきました。

被災して1か月も経つとボランティアの数がめっきり減ってしまい、たった数人という時もありました。そんな時、具体的に数字を出したらどうかとご提案いただいて実現したのが「1万人プロジェクト」です。同時にブログも立ち上げていただき全国発信してからは大勢の人が来てくれました。おかげさまで1万人を超えるボランティアの皆さんに駆け付けていただき、1万人目のボランティアさんとは今も交流があります。ともすれば活動主体になりがちですが、広報媒体の重要性やそのセンス！など、たくさんのお話を学ばせていただきました。本当にありがとうございました。私たちは元気です！



新宮・熊野川に1万人のチカラを！

台風12号豪雨災害 和歌山県 新宮市災害ボランティアセンター通信① 平成23(2011)年10月4日発行

平成23(2011)年9月6日に新宮市災害ボランティアセンターを、14日に熊野川サテライトを設置して以来、地元のニーズ(希望)と全国から駆けつけられるボランティアの皆さんの調整を行っています。それは単に作業の調整ではなく、一日も早く正常な暮らし

新宮市災害ボランティアセンターでは、1万人のチカラを！と通信を発行し、ブログを開設した。こういった情報発信の支援と団体等のコーディネーションを行った。

親しむ

関西に避難してきた方・ご家族がつながる場づくり

震災以降、原発事故による放射能被害等を恐れ、多くの人たちが被災地から関西に避難・転居し、不慣れな地での生活を余儀なくされました。そこで、生活に不安や悩みを抱えた避難家族の応援と楽しいひと時を過ごしてもらいたいという願いから、避難家族を応援するために「ひらかたパーク」および「東映太秦映画村」招待企画を実施しました。



関西への避難家族に関西を知っていただく：「おもてなしプロジェクト」

関西への避難者の方をおもてなしする企画として、各社団体が持っている「文化」「スポーツ」「サービス」などの一部を被災者の皆さんに提供することで、関西の良さをより楽しく知っていただくプロジェクトを企画。関西での避難生活を少しでも楽しくしていただく一助に、20の提供メニューをカタログにまとめたところ、279人からの申込みをいただき、文楽、コンサート鑑賞や野球観戦など、大阪・関西らしいプログラムを提供することができました。



「関西の人はあたたかいな」。

8 という言葉を聞いて、温かくなりました。

□関西への避難してきた方々の思い

■2011年9月～11月に届いた「ありがとう」の声

- ・同じ福島県の方とお会いできて、話やこれからの予定についても交流が出来て、とても良かったです。誠にありがとうございました。
- ・同郷の人たちと話し、同じ悩みなどを持っていて、共感できてよかったです。
- ・被災者にとって、経済的に困難なことから、なかなかテーマパーク等に行くことは、考えてしまいがち。無料でこのようなイベント等に参加できるのはたいへんありがたい。感謝しています。スタッフも対応がよく、気持ちよく一日を過ごすことができました。
- ・まだまだ落ち着かない生活の中で、このような場を招待していただいて、とても楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。また、頑張れそうです。
- ・子供たちがとても喜んでいて、その笑顔で私の疲れも飛んでいきました。そのきっかけをいただき、感謝します。

■見えてきた「心配です」の声

- ・幼稚園、学校などの支援はすごく助かっています。子どもたちの心のケアが必要だと思っています。
- ・子どもたちは住み慣れた場所から離れて、幼稚園も変わって、なれない環境でとても辛い思いをしている。
- ・母子二人での避難生活ですので、母不在時等（病院や入院）、子供を預かってもらえるとありがたいです。
- ・子供が小4で、小6の4月には今の家を出ないといけな。同じ学区で賃貸の住宅がとても少ない。
- ・母子避難のため、父親が月に一回程度の交通費（往復代）が非常に苦しいのが現実です。
- ・時が過ぎる中、忘れ去られてきている感がある。

避難者支援の取り組みを通して（近畿労働金庫 地域共生推進部 中須雅治さん）

近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度という、近畿のNPO支援センターのみなさんと協働したプロジェクトの中で、ひらかたパークや東映太秦映画村での企画を実施してきました。この取り組みを通して、関西に避難されている方々が「交流」や「子ども達が思いっきり遊べる場所・機会」を想像していた以上に求めていることを実感しました。そして、住居・教育・介護・就労・保障問題等、様々な深刻な課題も改めて認識しました。このことは、避難者だけのことでなく、生活上で厳しい状況におかれた場合でも、誰もが安心して助け合って生活ができる社会づくりが、これからの被災地支援・避難者支援を考える上で大切な視点なんだろうと思います。



■2012年3月「おもてなしプロジェクト」に寄せられたみなさんの声

- ・なかなか出かけないところへもこうして招待があれば「行ってみようかな～」って足を運ぶ気持ちになるのでありがたいと思います
- ・このプログラムのお知らせを見、一年頑張っでこれたなという気持ちが改めてしました。こういったプログラム本当にありがたいです。
- ・おもてなしプロジェクト！とっても素敵な案ですね！どれにしようか迷っているひと時が幸福な気分です。
- ・野球は親子で大声で応援し、本当に楽しみました。音楽会は今まで大変な日々を思い出しながら、ひとり振り返ることができた時間でした。
- ・子どもたちにとって父親不在の生活は心細くイベントや文化的なことへの参加で心が癒されると思います。

誰かが応援してくれているという気持ちを心の励みに

（まるっと西日本 世話人 古部真由美さん）

「おもてなし」によって多くの避難者が久しぶりの「余暇」を楽しみました。避難者は避難後は生活再建に必死です。息抜きをする余裕もない避難者がほとんどです。福島と同じくらい汚染された栃木や茨城、千葉、群馬、東京の一部からも避難して来ています。以前いた東日本の地域から「逃げるな！」という「非難」を受けた人も多く、街、家、仕事に加え「人間関係」までも失った人がとても多いのです。「おもてなし」によって心が励まされたと共に誰かが応援してくれているという気持ちをこの「おもてなし」のなかに感じています。この場をかりて避難者を代表し御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



忘れない



□震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI ～まだまだ、これから～」

<http://www.311-kansai.com/>



2012年3月10日から11日に、梅田スカイビルにて震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI～まだまだ、これから～」を開催。実行委員会の事務局を担当しました。ボランティア、NPOなど支援関係者や関西に避難している方、復興支援活動に取り組む企業関係者など、5500人もの方々に来場いただきました。

「忘れない」、「おたがいさま」、「関西でできること」をキーワードに、多くの支援団体が集い、被災者に寄り添う取り組みを発信。新聞、テレビ、ネットなど多くのメディアでも取り上げられ、関西での震災復興への想いと行動をカタチにすることができました。まだまだこれからも続く支援活動の大きな第一歩とすることができました。

【主催】3.11 from KANSAI 実行委員会〔（福）大阪市社会福祉協議会／市民フォーラムおおさか実行委員会／スペシャルサポートネット関西／（特）遠野まごころネット／ミンナDE カオウヤ／（福）大阪ボランティア協会〔事務局〕〕



▲住田功—NHKアナウンサーも応援に駆けつけていただいた



▲3月11日14時46分、関西から、東北を想い、全国の避難者を想う。手をつないで黙とう——

関西から祈る——。本当に、「まだまだ、これから」です。



▲遠野まごころネットと連携して、ボランティア経験者を中心とした160人で、ワールドカフェ方式による活動の振り返りと今後の展開を話し合う。



▲大阪市社会福祉協議会と連携して、関西の避難家族の方の体験談や交流企画を実施し、支援情報を提供。119世帯、295人に参加いただき、物資提供や保育スペースなども設けた。

■参加者の声（アンケートより）

- 「今後もこういった形でネットワークのつながりの場があればと思います。本当にありがとうございました」
- 「仮設住宅に住まわれている方の作品を実際に見たり、購入出来たり、関西にいても出来る支援の形がたくさんあり、とても良かったです」
- 「3.11 の日にイベントに出掛けるということ自体には正直抵抗がありました。この日は家で静かに祈ろうと思っていたからです。でも実際に関西でこれだけたくさんの方が被災地に思いを寄せているという場を目にすることができ、またこれまでの自身の経験を共有でき、参加できてよかったと思います」

<10 日> ■ステージ企画

- 11 時 オープニング 総合司会：下間都代子
書道家・日吉丸ライブパフォーマンス
- 12 時 human note ゴスペルライブ 司会：吉田あきこ
- 13 時 大阪プロレス トークショー 司会：竹房敦司
- 14 時 KYO - MI と子供たち&まはろ
- 15 時 Yankoba ギター弾き語り

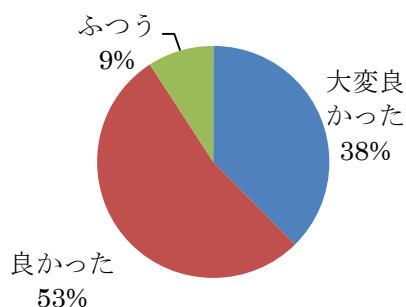
<11 日>

- 10 時 30 分 トークイベント
司会：OBC パーソナリティ 笑福亭銀瓶
ゲスト：KYO - MI と子供たち
- 11 時 ヴァイオリン演奏 永ノ尾文江
- 11 時 30 分 トークイベント
司会：三代澤康司ABC アナウンサー
ウルフルケイスケ(ウルフルズリーダー)
- 12 時 USJ キャラクター グリーティング
- 12 時 30 分 トークイベント
司会：FM COCOLO DJ KIYOMI
ゲスト：丸石輝正
- 13 時 15 分 ヴァイオリン演奏 永ノ尾文江
- 14 時 15 分 セレモニー
司会：住田功一NHK アナウンサー
14 時 46 分 黙とう、つながれ地球プロジェクト
- 14 時 50 分 此花少年少女合唱団
「(みんなの)春よ、来い」プロジェクト
- 15 時 15 分 朝原宣治選手ランニング教室

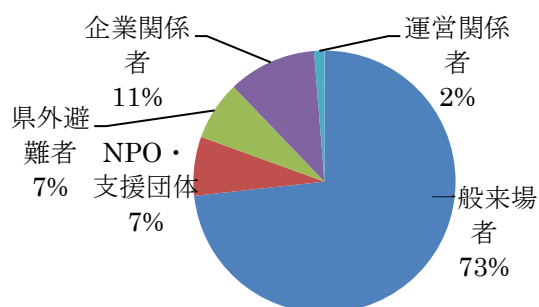
<11 日> ■梅田ステラホール他館内での企画

- 10 時 30 分 関西に避難されている方応援企画
「避難者のつどい311“with” KANSAI」
- 12 時 支援組織対象企画
「まだまだ、これからが復興支援！ ～関西から東日本大震災の被災者を支え続ける～」
- 15 時 20 分 ボランティア対象企画
「ワールドカフェ ～あなたにとっての震災を語ろう～」

■参加者の満足度（回答数 149）



■参加者の属性



■東日本大震災・紀伊台風水害支援活動の収支決算報告 2011

大阪ボランティア協会の動きに賛同する多くの支援者の方から、多くのご寄付をいただきました。また、企業や助成団体からもご支援いただき、活動を進めることができました。これまでの多くの様々なご支援にお礼を申し上げます。

	2011 年度決算額 (円)	
<収入の部>		
東北震災寄付金収入	9,057,005	個人、企業、NPOより
紀伊半島水害寄付収入	852,467	個人、企業、NPOより
助成金収入	13,616,040	
中央共同募金会	2,725,930	コーディネーター派遣 (9～12 月)
近畿ろうきん	2,300,000	フォーラム、情報発信など (通年)
支援P (運営支援者)	5,542,000	災害ボラセン支援者派遣 (3～8 月)
支援P (ボラバス)	3,048,110	東北 (5～12 月)
参加費収入	3,610,400	
収入合計	27,135,912	
<支出の部>		
人件費	11,612,000	
正職員俸給 (現地)	6,278,000	
正職員俸給 (大阪)	4,394,000	
嘱託職員俸給 (現地、大阪)	940,000	
事業費	11,541,375	
移動バス、宿泊費	7,775,166	
旅費交通費	2,285,297	
謝礼金	680,000	
会議室	83,220	
印刷、通信、消耗品	717,692	
経常支出合計	23,153,375	
経常収支差額	3,982,537	翌年度の支援活動に繰り越し (積立金へ)

■東日本大震災・紀伊台風水害支援活動・寄付をいただいた皆様 *五十音順、敬称略

青木理恵子 浅田睦 石井祐理子 石倉成美 稲原珠実 上野好子 上野博 上野谷加代子 浮田雅代
 臼田篤子 江口聡 岡田隆 岡島克樹 岡本仁宏 岡本友二 荻野俊子 小野由美子 海士美雪 寛健一
 河西実 加藤健 加藤寿賀雄 加留部貴行 川村良子 川井田正志 楠正吉 玖波井加代子 黒田進 黒田義子
 黒田芳子 栗原彬 呉美恵 越村真己子 古結洋子 小林貴子 小原陽子 小尾智恵子 小尾隆一 小山琴子
 坂上晃一 阪本美津江 桜井政成 佐藤陽 柴田誠子 島崎貴士 神野武美 鈴木昭二 竹内壽代 武永勉
 武村圭子 巽澄子 津崎吉子 土屋りつ子 筒井のり子 寺島正裕 遠塚谷富美子 内藤伸彦 長尾文雄
 永岡正己 中川緑 中島清孝 永田正実 中橋克人 中本信子 西田稔仁 西部均 延岡敏也 畑井義朗
 濱真理 濱田耕太郎 原田京子 原田英男 原田博子 東山富昭 疋田恵子 日高清司 平子一彦 平岡蕃
 平手清 廣田浩一 福山正和 藤澤晴彦 藤田恵子 藤原美里 古川明郎 牧口一 正木敦士 増田宏幸
 松川希実 三浦哲郎 三木さと子 三木裕美子 宮本正司 水谷綾 水谷吉男 水谷玲子 村田せつ子
 妻鹿ふみ子 森田安恵 森本聡 藪内正江 山内庸行 山岡義典 山根節美 山本敏史 山元弘久 山本幸夫
 湯木貞博 横尾昭雄 横田清香 脇坂加代子 和泉石材 茨木市市民活動センター 大阪ガス(株)
 大阪ガスグループ小さな“灯”運動 韓国自願奉仕連合会有志 関西電力(株) 積水化成成品工業(株) 積水ハウス(株)
 積水ハウス有志 積和管理(株) (特)高槻まごころ 地球市民育成教育研究所 なにわ語り部の会
 走ろう歌おう大運動会 パナソニック(株) (株)ミューズ ボランティアバス第6便有志 忘年会チャリティ

※上記の皆さまの他に、匿名希望などの理由により、30名のお名前を省かせていただきました。

社会福祉法人 大阪ボランティア協会
 〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-29-20 大阪NPO プラザ 100 号
 TEL06-6465-8391 FAX06-6465-8393
 Email:office@osakavol.org